



MGC 情報パッケージのサポート

DBE が拡張され、国際電気通信連合 (ITU) H.248 規格の新しい勧告ドラフト H.248.45 「MGC Information Package」で定義されているメディア ゲートウェイ コントローラ (MGC) 情報パッケージ (mgcinfo) がサポートされるようになりました。このパッケージを利用すると、MGC がデータをメディア ゲートウェイ (MG) 上に保管して後で取り出すことができるようになるため、MGC のリカバリ処理が容易になります。

MGC 情報パッケージ サポートの機能履歴

| リリース | 変更内容 |
|------------|--|
| リリース 3.5.1 | Cisco XR 12000 シリーズ ルータおよび Cisco CRS-1 に、この機能が追加されました。 |

内容

このモジュールの構成は次のとおりです。

- 「[MGC 情報パッケージ サポートに関する情報](#)」 (P.489)
- 「[MGC 情報パッケージ サポートの設定方法](#)」 (P.490)
- 「[その他の関連資料](#)」 (P.493)

MGC 情報パッケージ サポートに関する情報

標準 H.248 監査メカニズムでは、MGC と MG の間での接続データおよびステートの再同期を目的として、MGC が、関連付けられた MG からデータを取得できます。エフェメラル終端に関連付けられるリモート記述子を使用すると、ベアラ接続の他端を特定できますが、MGC が使用しやすい形式とは異なります。リモート記述子を使用しても他端を特定できないこともよくあります。MG の中には、別の制御/メディア アドレスを使用するものがあるからです。

MGC 情報パッケージ機能を使用すると、MGC がデータ ブロックを MG 上に保管できるので、MGC がベアラ接続の他端を特定できるようになります。保管されるデータの構造は、MGC のみが理解し、MG にとっては不透明です。これで、MGC 障害が発生した場合に、保管済みのデータ ブロックを MGC が取り出せるようになります。MGC が接続の他端 (一般的には別の MG 上にあります) を特定できるようになるので、その別の MG 上にある関連接続を、MG と連携しながらクリーンアップできます。文字列の内容は、MGC が最も使いやすい独自の方法で MGC が自由に定義できます。

MGC 情報パッケージを利用するには、サポートする MG がエフェメラル終端 1 つにつき最大 128 バイトの不透明データを保管できる必要があります。このデータは、監査 MGC が MGC 障害発生後に情報を回復するために、その MGC に返されます。

データは、`mgcinfo/db=0011223344` 形式で保管されます。監査は、Media 記述子（この中に LocalControl 記述子があります）に対して、または LocalControl 記述子内の個々のプロパティに対して実行できます。次に例を示します。

- `Audit{Media}`

または

- `Audit{Media {Stream=1 {LocalControl {MGInfo/db}}}}`

DBE は、任意のエフェメラル終端への不透明データ ブロック追加を許容し、標準 H.248 プロトコルのコマンドを使用して既存のデータ ブロックを変更または削除することも許容します。DBE は、この不透明データをフォールトトレラントな方法で保持し、MGC による終端の監査時に、そのままの状態で見返します。

この機能を追加した後は、このパッケージのサポートが常にイネーブルになり、ディセーブルにはできません。パッケージを使用するかどうかは、制御側の MGC が決定します。MGC が 128 オクテットを超える `mgcinfo/db` を送信した場合は、DBE はこれを拒否し、エラー コード 442 を返します。このパッケージは、H.238 v2 および H.248 v3 の両方のバージョンでサポートされます。

MGC 情報パッケージ サポートの設定方法

Ia および Cisco プロファイルで MGC 情報パッケージをイネーブルまたはディセーブルにするために、新しい `enable | disable` コマンドが追加されました。

手順の概要

1. `configure`
2. `sbc service-name`
3. `dbe`
4. `vdbe`
5. `h248-profile profile-name`
6. `package package-name enable | disable`
7. `commit`
8. `exit`

手順の詳細

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|-------|--|--|
| ステップ1 | <p><code>configure</code></p> <p>例： RP/0/0/CPU0:router# configure</p> | グローバル コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。 |
| ステップ2 | <p><code>sbc service-name</code></p> <p>例： RP/0/0/CPU0:router(config)# sbc mysbc</p> | <p>SBC サービスのモードを開始します。</p> <p><code>service-name</code> 引数を使用して、SBC の名前を定義します。</p> |
| ステップ3 | <p><code>dbe</code></p> <p>例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc)# dbe</p> | SBC の Data Border Element (DBE) 機能のモードを開始します。 |
| ステップ4 | <p><code>vdbe</code></p> <p>例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc-dbe)# vdbe</p> | 仮想 DBE (vDBE) パラメータを設定するモードを開始します。 |
| ステップ5 | <p><code>h248-profile profile-name</code></p> <p>例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc-dbe-vdbe)# h248-profile etsi-bgf</p> | <p>MGC/SBE と相互運用するための DBE H.248 プロファイルの名前を設定します。</p> <p><code>profile-name</code> : H.248 プロファイルの名前。指定できるプロファイルは次の 2 つだけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SBC_GateControl (パラメータ値 : gatecontrol) • ESSI_BGF (パラメータ値 : etsi-bgf)。これは Ia プロファイルです。 <p>このコマンドの no 形式を使用すると、このコンフィギュレーション コマンドは設定されません。</p> <p>H.248 プロファイル名を使用するように vDBE が設定された後は、そのプロファイル名が Service Change メッセージでアドバタイズされます。</p> |

| コマンドまたはアクション | 目的 |
|--|--|
| <p>ステップ6 <code>package package-name enable disable</code></p> <p>例 : RP/0/0/CPU0:router (config-sbc-dbe-vdbe-h248-profile) # package mgcinfo enable</p> | <p>MGC/SBE と相互運用するための vDBE の任意パッケージをイネーブルまたはディセーブルにします。</p> <p>この設定を行わない場合は、このコマンドの no 形式を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • package-name : イネーブルまたはディセーブルにするパッケージの名前を指定します。値は次のパッケージ名です。 <p>aud-cap : Audit Capability パッケージ chp : Congestion Handling H248 パッケージ dtmfed : DTMF Detection H248 パッケージ dtmfg : DTMF Generation H248 パッケージ emp : Middlebox (emp) H248 パッケージ epstat : End Point Statistics H248 パッケージ eroot : Enhanced Root H248 パッケージ evpnd : Extended VPN Discrimination H248 パッケージ ginfo : GINFO H248 パッケージ mgcinfo : MGC Info H248 パッケージ ocp : Overlord Control H248 パッケージ rtp : RTP H248 パッケージ sfr : Session Failure Reaction H248 パッケージ tsc : Termination State Control H248 パッケージ</p> <p>これらのパッケージは、プロファイルの設定に基づいてディセーブルまたはイネーブルになります。</p> <p>Ia プロファイルの場合は、次のパッケージはデフォルトでディセーブルになります。</p> <p>epstats、rtp、emp、chp、ocp、sfr、tsc、dtmfed、dtmfg、mgcinfo、evpnd および eroot パッケージ。</p> |
| <p>ステップ7 <code>commit</code></p> <p>例 : RP/0/0/CPU0:router (config-sbc-dbe-vdbe-h248-profile) # commit</p> | <p>設定変更を保存します。実行コンフィギュレーション ファイルに変更を保存し、コンフィギュレーション セッションを継続するには、commit コマンドを使用します。</p> |
| <p>ステップ8 <code>exit</code></p> <p>例 : RP/0/0/CPU0:router (config-sbc-dbe-vdbe-h248-profile) # exit</p> | <p>現在のコンフィギュレーション モードを終了します。</p> |

その他の関連資料

次の各項では、MGC 情報パッケージのサポートに関連する参考資料を示します。

関連資料

| 関連項目 | マニュアル タイトル |
|---|--|
| Cisco IOS XR マスター コマンド リファレンス | 『Cisco IOS XR Master Commands List』 |
| Cisco IOS XR SBC インターフェイス コンフィギュレーション コマンド | 『Cisco IOS XR Session Border Controller Command Reference』 |
| Cisco IOS XR ソフトウェアを使用するルータを初回に起動し設定するための情報 | 『Cisco IOS XR Getting Started Guide』 |
| Cisco IOS XR コマンド モード | 『Cisco IOS XR Command Mode Reference』 |

標準

| 標準 | タイトル |
|--|------|
| この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。 | — |

MIB

| MIB | MIB のリンク |
|-----|---|
| — | Cisco IOS XR ソフトウェアを使用して MIB の場所を特定してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用して、[Cisco Access Products] メニューからプラットフォームを選択します。 http://cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml |

シスコのテクニカル サポート

| 説明 | リンク |
|--|---|
| シスコのテクニカル サポート Web サイトでは、製品、テクノロジー、ソリューション、技術的なヒント、およびツールへのリンクなどの、数千ページに及ぶ技術情報が検索可能です。Cisco.com に登録済みのユーザは、このページから詳細情報にアクセスできます。 | http://www.cisco.com/en/US/support/index.html |

